

コメント

若人の心に火を焚きつけた 同志社礼拝堂での説教

——ジョージ・ミュラーと天羽道子さん——

同志社大学社会学部教授 木原活信

天羽道子さん、横田千代子さん、素晴らしいご講演、本当にどうもありがとうございました。私は、同志社大学の社会学部社会福祉学科の木原活信と申します。専門は社会福祉学、福祉思想・福祉哲学、とりわけキリスト教社会福祉学を専門にしております。

ところで、この礼拝堂は建てられたのが1886年です。かつて新島襄もこの礼拝堂で説教をしている由緒ある建造物です。そして、建てられたそのすぐのことではありますが、イギリスから「孤児の父」で著名なジョージ・ミュラーがここに来てお話をしました。そこで、「信仰の生涯」というメッセージを若い学生たちに語ったのです。

その年、ジョージ・ミュラーは80歳をすでに超えていましたが、新島襄の招きで、はるばる船でイギリスからやってきました。ジョージ・ミュラーの話（それをもとに作られたパンフレット含めて）に、いたく感動して文字通り人生が変えられた若者たちがおりました。日本の社会福祉をつくったと言われる人物たちです。その1人が「孤児の父」と言われる石井十次ですが、その話に感動し、「日本のミュラーになろう」と決意し、岡山孤児院の創設に尽力します。そして、もう1人が、先ほど少しお話に出ました

救世軍の山室軍平であります。貧しい1人の青年が、同志社でのミュラーの講演に感動して同志社に入学する決心をしたのです。山室はその後、同志社を飛び出して、救世軍の中で先ほど言われた「底点」で苦しむ人々、彼が真っ先に支援に向かったのは遊郭で苦しむ女性たちの問題でした。ある時のことですが、山室は救世軍の仲間たちと、その遊郭の現場で賛美歌を歌い、路傍伝道のメッセージを語っているときに、それを阻む利権者から日本刀で切りつけられることがありました。しかしひるむことなく、彼はその救済に身を転じました。遊郭からその女性たちを解放するだけではなくて、その女性たちの手に職も身につけさせるべく、生活全体をケアする施設を始めました。

ところで、私は、先ほど天羽道子さんが92歳の御年でこの壇上に立たれて、自らの実践を語られたときに、当時のミュラーの演説もこんな光景だったのではないかとしみじみと思いました。今日もここに若い学生たちが同じ場所に座っております。それは「火を焚きつける」というようなイメージでしょうか。ジョージ・ミュラーの「信仰の生涯」を通して語り伝えられたそのメッセージが、石井十次や山室軍平の心に火を焚きつけ、その後の人生に大きな影響を及ぼし、結果的に日本の社会福祉の歴史に大きな影響を及ぼしたように、今日の話聞いて若人の心に火が焚きつけられることを願っています。

横田さんのお話も、非常に勉強になりました。昨年、私は大阪の阿倍野の教会に家族でメッセージを語りに行ったその帰り道、

車でナビに示すままにドライブしたのですが、なぜか道に迷い込んでしまった場所が、何とあの飛田新地（とびたしんち）だったのです。ご存じの方もおられると思いますけど、恥ずかしながら初めて実際にその光景を見て驚きました。若い女性が……ネオンの光に照らされて下着のような姿で店の前に座っている。それが150軒も延々と連ねている。いわゆる当時の「遊郭」の光景そのままです。

「え？これっってもう歴史的な話で、終わったのは？」と、妻が尋ねました。私も、ある程度知識としては知っていたけれども、実際に見たそのリアリティーには驚きを持ちました。「ホステス」と称して、それはいわゆる売春防止法の抜け道として、客と仲居のその場での「偶然」の出会いによる「自由恋愛」だという「脱法行為」が現代でも平然と行われているのです。この現代日本の中、そのようなことを知らないで安穏と暮らしている私たちがいるのではないのでしょうか。このような性の問題は闇に葬られる典型的な問題であろうと思います。山室軍平がかつて立ち向かったのもその性にかかわる問題でありました。

つまり、今日の問題の中で私たちが立ち向かっていかなければならない問題というのは、闇に消された問題、今日のテーマである女性の支援というテーマを考えたときに、それは男社会の抑圧についてどれほど意識しているだろうかという点です。今でも飛田新地の「遊郭」のことがどうしても頭から離れませんが、それは日本社会の闇の問題です。誰も知らない、知ろうとしない、そこに闇があります。また、女性だけでなく、さまざまな抑圧され

た人々、子どもたち、貧困、障害、その他さまざまな問題に多くの人が誰も声を上げないという現実があることを私たちは自覚しないといけないでしょう。

こういう問題を、今日この場所で、この同志社大学の礼拝堂のこの場所でお話しをしてくださったことに心から感謝しております。また、この後の討論会においても、豊かな実りのあるものになりますことを心から願っております。本当にどうもありがとうございました。